

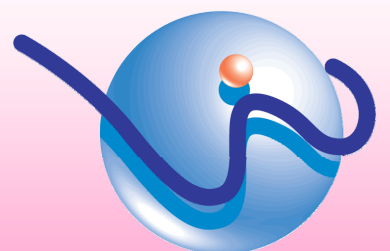
和光病院 だより

Vol.6



大阪城公園 白梅

写真撮影者 ふじもり よしえ
藤森 美栄



WAKO
Hospital

明けましておめでとうございます

ご挨拶

新しい年を迎えるに当たって

新年、明けましておめでとうございます。年頭にあたり、皆様のご健康とご多幸をお祈り申し上げます。

昨年来、日本の経済は厳しい状況下に推移し、病院にとりましても、難しい経営環境が続いております。

こうした中で、曲がりなりにも新しい年を希望とともに迎えることができましたのは、一重に、皆様方のご厚志の賜と心より御礼申し上げます。

昨今、認知症に関する一般の方々の認識が高まり、和光病院におきましても、発症後、早期のうちから診断を求めて来院する方が増え、外来診療の予約待機時間が徐々に長くなっております。一方、国民意識や社会情勢の変化の結果、認知症に伴う精神症状や行動上の障害に対する家族の対応能力が脆弱になり、外来通院中、小さな環境の変化で緊急に入院を要するような事態が増えております。さらには、急性期医療を担う医療機関が、効率的な運用を迫られるあまり、認知症の身体合併症や終末期医療を提供する場が減少していま



院長
齋藤 正彦
さいとう まさひこ

す。こうした社会情勢を背景に、和光病院では、早期認知症の患者さんの外来診療、認知リハビリテーションから、問題行動や精神症状に対する外来・入院治療、病棟における終末期ケアまで、求められるサービスの範囲が拡大しています。同時に、認知症に加え、身体合併症、複雑な家庭状況、家族間のトラブルなど複合的な困難を抱えた患者さんが増えることにより、精神医療、身体合併症医療、生活支援など複雑で難度の高い医療の質が求められるようになりました。

病院の経済状況を含め、私たちを取り巻く状況は決して楽観を許さぬものではございますが、『地域に支えられ、地域を支える』をモットーに新しい年も、志を高く掲げて努力を重ねて参りたいと考えております。皆様方には、本年も相変わらずのご支援、ご鞭撻を賜りたくお願い申し上げます。

平成22年 庚寅

事務局長
町野 譲
まちの ゆずる

昨年夏、ご利用者の皆様へ当院の満足度アンケート調査にご協力をお願いいたしました。過分なるお褒めのお言葉も頂きましたが、私どもが気付かない点多々ご指摘を受け、真摯に受けとめ、今後の改善に向かっていくところでございます。物理的な改善は、難しい面もありますが、検討し、工夫していきます。待ち時間の短縮・スタッフの接遇等のサービスの改善は、今年重点事項として、取り組んでまいります。引き続きご指導ご鞭撻をお願い申し上げます。

私ども医療法人翠会（ミドリカイ）は、「新賃金制度」・「人事評価制度」の導入と「就業規則の改定」を本年施行いたします。スタッフ一丸となり、地域に根ざした病院として存在するようこれまで以上に努力をしていきます。

昨年の「うし」は、少し牛歩過ぎました。「寅年」の今年は、「虎穴に入らずんば、虎児を得ず」のたとえ。一歩踏み込む姿勢で、事に当たる所存です。宜しくお願い申し上げます。

看護部長挨拶

看護部長

藤森 美栄 ふじもり よしえ



新年明けましておめでとうございます。

ご家族の皆様、地域の皆様には日頃からのご理解とボランティア活動等によるご支援を頂き心から感謝申し上げます。

さて、看護部では、病院の使命を受けて看護部理念を「患者さんご家族に」この病院を選んで良かった」と思っていただけのような看護・介護を提供します」としています。新年を迎え、今一度当院の使命・看護部の理念を心に留め、知識・技術・判断力・やさしさを兼ね備えた専門職として信頼され、皆様に喜んでいただけるケアを提供できるよう努力していこうと気持ちを新たにしております。

毎年、研究にも取り組んでおりますが、21年度は、「高めよう！和光病院のケア」をメインテーマとして、各病

棟毎にテーマを決めて進めています。日頃のケアの振り返りや、ケア・業務の改善等をまとめ、1月に発表会で報告を予定しています。スタッフは、日々の業務の傍らでその様な努力も重ねております。病院は、様々な課題を抱えておりますが、一人ひとりが持てる力を発揮し、患者さんにとってより快適な環境と良質なケアを提供できるように創意工夫を重ねていきたいと思っております。皆様には、引き続きご支援・ご協力を頂きますようお願い申し上げます。

【看護部理念】

患者さんご家族に“この病院を選んで良かった”と思っただけのような看護・介護を提供します。

【基本方針】

- 1 患者さんの尊厳を守ります。
- 2 患者さんにとって安全で快適な環境を整えます。
- 3 専門職として感性を磨き、自己研鑽に努めます。



謹賀新年

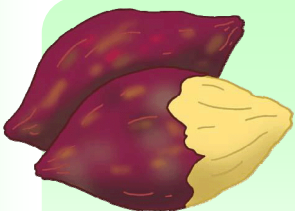
委員会について

当院には患者さんを取り巻く様々な事柄に関してスタッフによる専門の委員会があります。医療安全管理委員会を筆頭に、教育委員会、感染・褥瘡対策委員会、事故対策委員会、アクティビティ委員会、環境保全・防災委員会、食事委員会、そして本誌を発行しております広報委員会です。患者さんに少しでも快適な入院生活を過ごしていただけるよう、各委員会は日々努力しております。今回は「アクティビティ委員会」を紹介いたします。

「アクティビティ委員会」

当院では、患者さんの生活リハビリの一環として、
①アクティビティの充実を図る
②スタッフの関心を広める
③日々の病棟生活の中に変化をつける
の3点を目的に、アクティビティ委員会を設けています。委員は、統括師長を委員長に、各階の看護、介護スタッフ、栄養科、リハビリテーション科で構成されています。

病棟では、毎月の誕生会の他に、季節に合わせたイベントを企画し、病院全体の行事としては、患者さんに四季を感じていただけるよう、新年には獅子舞と餅つき、夏にはカキ氷、秋には炭火で焼いた焼き芋を提供しています。昨年11月26日に実施した焼き芋では、「おいしい」「おいしい」と昔の記憶をよみがえらせて笑顔を見せてくださる患者さんの姿を見て、私たちも嬉しく思いました。毎日が受身的な入院生活だけでなく、主体性や選択肢のある、変化に富んだ日常は、認知症の患者さんにとって刺激になるものと思われまます。今後も、日々の生活の中に一瞬でも笑顔が見られ楽しかった時の記憶を思い出していただけるお手伝いができるよう、企画提案をしていきたいと思っております。



「やきいもの様子」

6階病棟

新年、明けましておめでとう
ございます。

6階病棟は、レクリエーション活動にひと工夫をこらした病棟です。

昨年は春のお花見、初夏のパラ園、秋・冬はおはぎや巻き寿司作りを患者さんと一緒に楽しみました。父の日にはノンアルコールビールで男性患者さんと居酒屋を開いて楽しみました。病棟内で過ごされることの多い患者さんですが、外出されると、日頃とはまた違った笑顔が見られます。往復のクルマの中、公園での散策やティータイムでは会話もはずみ、私たちスタッフも元気をいただきます。

また四季を感じていただくとう企画した夏の流しそ
うめんと、秋の屋
台のやきいもでは



白濱医師 安藤主任 岩崎主任 神代師長

「流しそうめんの様子」

5階病棟

明けましておめでとうござい
ます。

5階病棟は、看護師、介護士、病棟事務、食事介助専門パート、約30名でケアをしています。現在、入院中の患者さんの平均年齢は約82歳で、昨年の9月には2名の患者さんが100歳になりました。大変にぎやかで明るい病棟です。

日頃からお食事の前にオシボリを使っていただくのは勿論のこと、ご自分でお食事を召し上げられない患者さんにも清潔を保ち、爽快感を味わっていただくとうと、手浴（手洗い）に力を入れてケアしています。拘縮の激しい方もし
っかり手を
広げて石鹸
と微温湯で
よく洗い流せるような工夫を重ねています。



高橋主任 高橋師長 帖佐医師 末吉主任

4階病棟

4階病棟は昨年4月より入院
病棟としての役割をよりいっそ
う強めることになりました。一
人ひとりの患者さんに対してご
本人の意思を尊重し、患者さん
が安心できる治療環境を提供で
きるように努力しています。

定期的にかンファレンスを行
い、病棟担当医、
看護師、介護士
作業療法士、
管理栄養士、
精神保健福祉士
、心理士、認知

症ケア専門士等の各専門職のスタ
ッフが情報交換、情報共有を
はかり、より具体的な対応を検
討して、ケアにつなげています。
また感染・褥創対策委員、事故
対策委員、アクティビティ委員、
食事サービス委員などを担当し
ているスタッフが患者さんによ
り良質のサービスを提供するた



宇津野主任 犬尾医師 石本師長 齊藤主任



「カンファレンスの様子」

3階病棟

3階病棟では、患者さんの尊
厳を重視し、ご本人、ご家族の
皆様のご希望に添った入院生活
を送って頂けるよう、看護師長
をはじめ看護師、介護士、食事
介助専門パート、病棟事務でチ
ームケアを行っています。

単調になりがちな毎日です
が、病棟内では、季節感のある
催しを企画、どのような病状の
患者さんも視覚、嗅覚、聴覚、
味覚、触覚をフルに使い、共に
楽しい時間が過ごせるような工
夫をしています。中でも、食事

レクリエーションでは、とびき
りの笑顔に出会えます。昨年春
は、イチゴ狩りに、おはぎ作り。
夏は、スイカ割りに、流しそ
うめん。秋は、サツマイモの茶巾
しぼり。冬は、ジャンボプリン
やケーキを作ったクリスマス会
を楽しんで頂きました。他にも、
お花の会、映画鑑賞会、フルー



帖佐医師 加藤師長 元主任 三戸主任

2階病棟

2階病棟では、これまでのケ
アを見直してさまざまな取り組
みをしています。入浴の援助は、
浴室の誘導から入浴後の整容や
水分の補給までの一連の流れを
1人の患者さんを1人のスタッ
フが担当するように改善しまし
た。それにより患者さんが、こ
れまで以上にゆつくりと穏やか
に入浴できるようになったよう
に思います。また清潔な衣服を
きちんと着ることや、髪を整え
ることなどの身の回りのケアを
改めて意識することや、夜はパ
ジャマに着替えて寝るという当
たり前の生活ができるように改
善し始めています。

そして、病棟内の環境もご高
齢の患者さんの生活の場を意識
した装飾を心がけています。廊
下や病室の壁には、スタッフの
知り合いの方から送られた絵手
紙の額をかけ落ち着いた雰囲気



清藤主任 石川師長 岩崎主任 帖佐医師

参加される姿が、とても印象的でした。普段食事の進まない患者さんともておいしそうに召し上がりました。日常の食事では提供することが難しい食材は患者さんの味覚を大いに刺激するようにです。そのご様子を見ている私たちもうれしくなります。



「やきいもの屋台」

また、拘縮や白癬予防にも取り組み、通常はガーゼで作るハンドロールを、5階病棟ではフエイスタオルを活用し、握りやすいものを手作りしています。お針仕事が得意な患者さんによって作っていただき、たくさん作ることが出来ました。ガーゼと違って洗濯が可能なので、経済的にも環境にも効果が期待されます。

毎月第4土曜日は、ホールで音楽療法を行っています。ご面会の時には是非ご家族で楽しんでください。日常とは違う、ハレの場面を楽しく過ごしていたでくことで患者さんお一人お一人が、6階病棟で心地よく過ごしていただけるよう心がけております。患者さん全員に参加していただけるレクリエーションは、なかなかできないのですが、一人でも多くの患者さんが参加できるようにこれからも工夫をしていきます。

病院での療養という中で限られた企画ではありますが、スタッフ一同よりよいケアを行ってまいります。本年もどうぞよろしく、お願いいたします。

そして、生活に張りを与える為の様々なレクリエーションも企画しています。集団でのものは勿論のこと、特に認知症の介護に求められる個別のケアを心がけ、楽しいという心の動きを大切にしています。今後も患者さん、ご家族の皆様に、より一層信頼していただけるケアの実践と、楽しく生活ができる環境づくりに励んでいきたいと思えます。本年もどうぞよろしくお願いいたします。



「和光病院 屋上庭園の牡丹」

め、積極的に勤めています。この一年、4階病棟にて取り入れたアクティビティ活動は毎月のお誕生日会、中庭での線香花火、手作りおやつやのバイキング、外出しての東京大仏見学、スイカ割り、患者さんによるトーンチャイムの演奏会などがありました。色、音、匂い、触感などの刺激により患者さんに生活感、季節感を感じ、また味わって頂き、楽しい生活の場になる様、心掛けています。その他、当院は看護大学、福祉専門学校、作業療法の学生たちの実習を受け入れ、認知症のケアの体験をして頂いています。また多数のスタッフが、地域の研究会、学会等に積極的に参加し知識を深めています。これからもご家族の皆様と共に患者さんの笑顔が見られる様に全スタッフで頑張ります。



「花火の様子」



「スイカ割りの様子」



ト演奏会など、様々な企画に参加したり、7階の庭園や中庭への散歩で気分転換をして頂いています。

今後は、ステップアップを図り、花見や買い物などの外出の他に、高齢者福祉センターで開催されている音楽療法や、イベントへの参加を試み、少しずつですが、地域の方々との交流を持てるような企画もできればと思っています。また、患者さんの中には将棋やダンスなど、まだまだ特技を維持されている方がいらつしやるので、長期目標として、他施設へのボランティア等も出来れば、と考えが膨らみます。今年には『残存能力を十分に機能させ、維持していく』ことに、より重点を置き、当院の専門職員はもちろん、ご家族の方々にもご意見を頂きながら、患者さんの生活のリハビリに繋がる、より良い看護、介護を提供していきますので、どうぞ宜しくお願い致します。



「クリスマスの様子」



お願い致します。

を作りだしています。これからも、季節感を感じていただけるような装飾を心がけていきたいと思っています。



昨年9月には介護士が中心となり、7階屋上でノンアルコールビールの「ビアガーデン」を開催し、楽しいひと時を過ごしていただきました。スタッフも一緒に大いに盛り上がりました。これからも生活に潤いをもたらすようなレクリエーションを企画していきたくと思っています。



まだまだ課題は山積していますが、患者さんが安心して過ごすことができるような環境づくりやより良いケアの追求をしていきたいと思えます。今年もよろしくお願いいたします。

ご家族アンケートについて

和光病院長 齋藤 正彦

昨年8月に施行致しました、病院サービスに関するご家族アンケートの結果がまとまりました。お忙しいなか、たくさんの方々にご協力頂き、有益なご意見、ご要望、建設的なご批判を賜りましたことにつき、厚く御礼申し上げます。

入院患者さんのご家族137人（回答率57.1%）、外来患者さんのご家族383人から回答をいただきました。すべての項目について、おおむね高い評価をいただきましたこと、大変ありがたく、スタッフ一同、ほっと胸をなで下ろしております。しかしながら、患者さんを病院にお預け頂いているという状況下での満足度調査でございますから、今回の皆様方の温かいご評価に安住することなく、私どもの仕事をさらに厳しく見直す必要があるものと考えております。5%内外のご家族が、「不満」、「やや不満」という回答をされた項目が、入院患者さんのご家族アンケートで下記の3項目ございました。

- (1) 面会のスペースや椅子は十分ですか
- (2) 医師の対応：病状や治療方法の説明は十分ですか
- (3) 看護師・介護士の対応：ご家族への説明と気配りは十分ですか

入院患者さんとの面会スペースに関しましては、建築物の物理的制約はございますが、病棟、病室の環境を見直し、対応に着手致しました。とりあえず、6階病棟のアメニティを改善するために調査を開始し、来年度以降、必要な予算の捻出を計ります。医師、看護師の病状説明、気配りにつきましては、今回の評価を全スタッフに周知徹底致しますとともに、院内で対応を検討致します。なお、接遇に関する研修を、関連病院を含め、組織全体で行うことと致しました。

外来患者さんのご家族アンケートでは、5%を超えるご不満があった項目は、ございませんでしたが、下記の4項目について2%以上のご批判をいただきました。

- (1) 待合い場所の広さや椅子は十分ですか
- (2) 会計の待ち時間はいかがですか
- (3) 医師の診察：病状や治療方法の説明は十分ですか
- (4) 薬剤師の対応：薬が処方されるまでの時間の長さはいかがですか

認知症を対象とする外来は、患者さんお1人に最低お1人、多い方では3人、4人のご家族が付き添われるため、どうしても待合室が混雑致します。昨年、待合室のレイアウトを変更しソファを入れ替え、椅子の数も増やしておりますが、曜日、時間帯によってはいまだ、ご不便をかける事があるようです。今後も、可能な限り工夫をして参ります。医師、薬剤師の対応につきましては、担当者に注意を促しました。なお、平成22年4月以降、認知症医療に経験を積んだ常勤医2名の赴任が内定しており、外来診療の枠を拡大することによって、混雑の緩和が計れるものと考えております。

新しい年を迎え、皆様のご意見に謙虚に耳を傾けつつ、スタッフの専門性を高め、気持ちよく、優れた医療サービスを提供出来る病院を作り上げるべく、一層の努力を続けて参ります。本年も、倍旧のご指導ご鞭撻のほどお願い申し上げます。

和光文庫

院長 齋藤 正彦
さいとう まさひこ

和光病院には、医局、1階会議スペース、リハビリテーション科、院長室にスタッフ向け図書があります。これらの蔵書は、日常の臨床に役立てるための医療、看護、介護、リハビリテーションなどに関する参考書や雑誌、研究発表の時に参考にするような基礎的な図書、レクリエーションの参考になる実用書等からなっています。

この他、1階待合ホール、7階の多目的ホールに患者さんやご家族用の図書があります。これらの図書は、患者さんやご家族のために集めている図書で、和光文庫という名前を付けています。私が院長になった時から少しずつ買い増してきたので、現在ではかなりの数になっています。和光文庫のコンセプトは、外来の診察待ちの間、あるいは病棟で患者さんの面会にいらつしやつた時に、その時間だけで読みたいという事です。したがって、絵や写真が多い本や雑誌、あるいは詩集のような本がほとんどで、持ち出してゆっくり読むというほどの本ではありません。外来の診察待ちはともかく、患者さんの面会にいらしたご

家族がどうして本を読んで時を過ごす

必要があるのだろうか、と疑問を持たれる方もあるかも知れません。しかし、私達の病院に入院している患者さんの少なからぬ方々は、ご家族を認識できませんし、ご家族とゆっくり会話を楽しむという事ができません。面会にいらつしやつても手持ちぶさたで身の置き所がないからスタッフと少し話をしてすぐにお帰りになるといふご家族も多いと思います。しかしながら、患者さんにとつても、ご家族にとつても、一緒に過ごす時間は大切なものだと思えます。ご家族に、病棟に入る前に、和光文庫の1冊を選んで頂き、話のできない寝たきりの患者さんの枕元に座って、普段は忙しくて手に取ることもないような、非日常的な1冊の本を読み、「じゃあまたね」と患者さんの手を握って帰って頂くことができれば、面会において頂いたご家族の気持ちも和らぐし、患者さんにとつても、介護や看護の作業の時の慌ただしいものとは違う、自分にとって大切な家族との穏やかで静かな接触が増え、長い目で見れば、心の安定にも繋がるだろうと思うのです。和光文庫は、私が1冊1冊、そういう気持ちで選んでいます。



和光病院公開講座

平成21年9月16日開催

第3回和光病院公開講座講演会「認知症の理解とケア」を開催いたしました。当日は天気にも恵まれ、予想を上回る206名の方にご来場頂き、盛会となりました。アンケートでは「気持ちや考えの整理ができ、楽になった」「リラククスし楽しく話が聞けてもつと知りたいと思つた」「次も楽しみにしています」などのご意見やご感想をたくさん頂戴しました。スタッフ一同、これからも「地域を支え、地域に支えられる病院」を目指し、一步一步努力を重ねて参りたいと思っております。

NHK出演

平成21年12月14日～18日

NHKラジオ第一
 ラジオあさいちばん「健康ライフ」
 ・平成21年12月12日・19日
 NHK教育テレビ

ここが聞きたい！名医にQ
 ～認知症に向き合う～
 齋藤院長が右記2番組（NHKラジオ・テレビ）に出演し、認知症について分かりやすくお話ししました。

活動報告

翠会学会

平成21年10月31日開催

今年度の翠会学会は北九州で八幡厚生病院・行橋記念病院で共同開催されました。当院からは発表者2名、シンポジスト1名、見学者など含めて合計9名が参加しました。メインテーマは『多職種との連携と地域ネットワーク―治療の場、生活の場の多様性―』であり、数多くの発表から自らの業務を改めて振り返る機会になりました。

臨床心理士 浅見 大紀
あさみ ひろき

高齢者を「新型インフルエンザ」からいかに守るか

平成21年11月25日開催

和光市中央公民館で「新型インフルエンザとパンデミック」という演題で白濱副院長が講演しました。また

- ① マスクの装着方
- ② 手洗いの法
- ③ 嘔吐物の清掃法

等の実技指導も併せて行い、参加者の方も身振り手振りを交えて興味深く聞き入っておられ、盛会となりました。



講演する白濱副院長



実技指導の様子

長野県 斑尾高原

写真撮影者 福島 芳美



「和光病院だより 6号」 発行日 2010/1/10 編集・発行 和光病院広報委員会
〒351-0111 埼玉県和光市下新倉 5-19-7 TEL 048-450-3311・FAX 048-466-0811
URL <http://www.wako-hos.jp> E-mail info@wako-hos.jp

和光病院の使命

「私たちの使命は、加齢に伴う精神と身体の病気で苦しむ人に、必要な医療サービスとケアを提供することです。」

私たちは、誠実さと、公正さと、謙虚さとを、行動の規範とします。

- ・自分たちの使命を誠実に遂行すること
- ・患者さんを経済力や、社会的立場で差別することなく、公正であること
- ・謙虚な姿勢で仕事に取り組み、職業的能力の向上に努力すること

編集後記

明けましておめでとございます。皆様には素晴らしい新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

多くの職場、特に病棟のスタッフが入れ替わりしました。今回はその紹介を中心に、患者さんの家族の皆様の病院等に対するアンケートの分析結果等を載せました。

本誌発行も3年目を迎え、広報委員ひとりひとりがやる気満々で取り組みました。読者の皆様にはご意見・感想等をお聞かせ頂き、よりよい「病院だより」がお届けできたらと思っています。

寒さ厳しき折、皆様にはくれぐれもご愛下さいますように。

副院長 白濱 龍興

広報委員長／白濱龍興 広報副委員長／横島義則

広報委員／・町野譲 ・藤森美栄 ・栗原真須美 ・本多学 ・本池慶子 ・香田万里 ・小坂由衣 ・落合真弓
・関口智美 ・山本明美 ・大山恵 ・陳秋実 ・本田直弥 ・内木えみ子 ・吉武美智子 ・寺島朗子